

# 広島市感染症週報

広島市感染症対策協議会・広島市感染症情報センター

## ■コメント

### 1. 感染性胃腸炎

定点当たり10.4人とほぼ横ばいとなっていますが、例年同時期と比べて多くなっています。安芸区30.5人と特に多く、東区16.7人、安佐北区10.0人となっています。

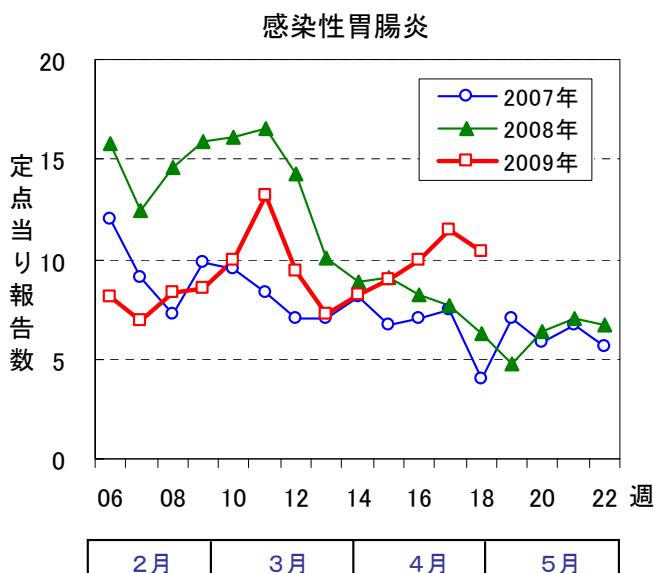
基幹病院2か所の迅速診断キット検査結果によると、4月はロタウイルスの検出数が多くなっています。

### 2. A群溶血性レンサ球菌咽頭炎

定点当たり2.46人とやや増加しています。安芸区5.5人、中区4.3人となっています。例年5月から6月ごろにかけて多い時期となりますので注意が必要です。

### 3. 後天性免疫不全症候群

3件の報告があり、今年の累計は10件(エイズ1件、HIV感染者9件)となりました。昨年を上回るペースで報告されています。



## ■5類感染症報告状況(定点把握対象分)

疾患名	報告数	定點当たり	平過去5年間(注1)	発生記号	疾患名	報告数	定點当たり	平過去5年間(注1)	発生記号
インフルエンザ(注2)	102	2.76	1.78	↑	ヘルパンギーナ	-	-	0.12	
咽頭結膜熱	11	0.46	0.44		流行性耳下腺炎	11	0.46	0.73	↑
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	59	2.46	1.53	↗	RSウイルス感染症	-	-	-	
感染性胃腸炎	250	10.42	6.74	➡	急性出血性結膜炎	-	-	-	
水痘	33	1.38	1.87	➡	流行性角結膜炎	9	1.13	0.68	
手足口病	1	0.04	0.49		細菌性髄膜炎	-	-	0.06	
伝染性紅斑	13	0.54	0.25		無菌性髄膜炎	-	-	0.03	
突発性発しん	13	0.54	0.49		マイコプラズマ肺炎	3	0.43	0.34	
百日咳	3	0.13	0.09		クラミジア肺炎(注3)	-	-	-	

急増減	↑	↓	前週と比較しておおむね1:2以上の増減
増減	↗	↘	前週と比較しておおむね1:1.5~2の増減
微増減	↑	↓	前週と比較しておおむね1:1.1~1.5の増減
横ばい	➡		ほとんど増減なし

報告数が少數の場合などは、発生記号を記載していません。

インフルエンザ定点数(小児科定点を含む)	37
小児科定点数	24
眼科定点数	8
基幹定点数	7

(注1)過去5年間の同時期平均(定点当たり)

(注2)鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等感染症を除く

(注3)オウム病を除く

## ■1類～5類感染症報告状況(全数把握対象分)

類型	疾患名	報告数	累積	備考
2 結核		5	69	女性(30歳代)・1人、女性(60歳代)・3人、男性(80歳代)・1人
5 後天性免疫不全症候群		3	10	男性(20歳代)・感染者、男性(30歳代)・エイズ、男性(40歳代)・感染者

## ■5類感染症報告状況の推移(定点把握対象分)

		インフルエンザ (注1)	咽頭結膜熱	A群溶血性咽頭炎	球菌性咽頭炎	感染性水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発しん	百日咳	ヘルパンギーナ	流行性耳下腺炎	R Sウイルス	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎	細菌性結膜炎	無菌性結膜炎	マイコプラズマ	クラミジア肺炎 (注2)
報告数	広島市	第14週	133	3	53	196	51	-	15	9	1	-	21	-	-	7	-	1	1
		第15週	126	1	55	215	37	-	10	16	5	3	21	2	-	10	-	-	2
		第16週	181	1	58	238	41	-	7	21	2	-	20	-	-	5	-	-	1
		第17週	160	11	47	274	35	-	9	14	4	-	17	-	-	10	-	-	2
		第18週	102	11	59	250	33	1	13	13	3	-	11	-	-	9	-	-	3
定点当り	広島市	第14週	3.59	0.13	2.21	8.17	2.13	-	0.63	0.38	0.04	-	0.88	-	-	0.88	-	0.14	0.14
		第15週	3.41	0.04	2.29	8.96	1.54	-	0.42	0.67	0.21	0.13	0.88	0.08	-	1.25	-	-	0.29
		第16週	4.89	0.04	2.42	9.92	1.71	-	0.29	0.88	0.08	-	0.83	-	-	0.63	-	-	0.14
		第17週	4.32	0.46	1.96	11.42	1.46	-	0.38	0.58	0.17	-	0.71	-	-	1.25	-	-	0.29
		第18週	2.76	0.46	2.46	10.42	1.38	0.04	0.54	0.54	0.13	-	0.46	-	-	1.13	-	-	0.43
	全国	第16週	4.10	0.22	1.91	8.48	1.47	0.08	0.12	0.72	0.05	0.05	0.60	0.11	0.01	0.52	0.02	0.03	0.44
	全国	第17週	3.51	0.29	2.15	8.57	1.56	0.10	0.13	0.71	0.04	0.06	0.53	0.10	0.03	0.51	0.02	0.03	0.39
(注1)鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等感染症を除く (注2)オウム病を除く																			

## ■新たに判明した病原体検査結果

新たな検査結果はありません。

## 【参考】新型インフルエンザ(豚インフルエンザH1N1)について

### ■症状

これまでの各国からの報告では、通常のインフルエンザと同じような症状で、発熱、咳、のどの痛み、体の痛み、頭痛、悪寒、倦怠感などがあります。米国からは下痢、嘔吐などの消化器症状も報告されています。

ほとんどは軽症ですが、中には重症化して肺炎を起こした事例や死亡した事例も報告されており、特にメキシコで多くの重症例、死亡例が報告されています。また、通常のインフルエンザ患者の年齢分布と異なり、比較的若い成年層の患者が多く報告されています。

しかし現時点では、このウイルスの感染力や毒性などについて不明な点も多く、さらに詳細な調査が必要と考えられます。

### ■感染経路

通常のインフルエンザと同様に、感染した人のせきやくしゃみによって、唾液などの飛沫とともに放出されたウイルスを、吸い込むことによって感染します(飛沫感染)。また、手指を介した感染も考えられます。

なお、豚肉や豚肉の加工品を食べることによって感染するものではありません。適切に扱われ、調理された豚肉製品を食べても安全です。食中毒予防の観点からも、生の豚肉に触った手や調理器具はしっかり洗い、食品は十分に加熱しましょう。

### ■予防方法

通常のインフルエンザの予防方法と同様で、手洗い・うがいの励行、マスクの着用のほか、バランスの取れた食事をし、十分な睡眠をとることが大切です。流行地域では、人込みを避けるべきです。

なお、新型インフルエンザウイルス(豚インフルエンザH1N1)は、Aゾ連型インフルエンザウイルスと同じ亜型ですが、遺伝子構造が異なっているため、現在使用しているインフルエンザワクチンは有効ではないと考えられています。

### ■治療方法

CDC(米国疾病管理センター)は新型インフルエンザ(豚インフルエンザH1N1)の治療や予防に、抗ウイルス薬であるオセルタミビル(商品名:タミフル)またはザナミビル(商品名:リレンザ)の使用を推奨しています。リマンタジンとアマンタジンは効きにくいという報告があります。

### ■消毒方法

一般的にインフルエンザウイルスは薬剤に弱いため、ほとんどの消毒薬が有効です。手洗いは、石けんを使用し、しっかりと流水で洗い流せば十分です。アルコールを成分に含んだ消毒薬も効果的です。

床や机、ドアのノブなどの消毒は、消毒薬を十分に浸した布、ペーパータオル等で当該箇所をまんべんなく拭きます。消毒剤の噴霧は、不完全な消毒やウイルスの舞い上がりを招く可能性があるため、実施するべきではありません。

本週報は、速報性を重視していますので、今後調査などの結果に応じて若干の変更が生じことがあります。  
なお、感染症情報の詳細についてはホームページでご覧いただけます。

URL <http://www.city.hiroshima.jp/shakai/eiken/center.html>

### 【問い合わせ先】

広島市感染症情報センター/広島市衛生研究所 〒733-8650 広島市西区商工センター四丁目1番2号  
TEL (082) 277-6575 FAX (082) 277-5666 E-Mail [ei-seikatsu@city.hiroshima.jp](mailto:ei-seikatsu@city.hiroshima.jp)